

移動等に関する地域の現状・課題

①高齢化の進行による交通弱者の増加

桜山団地周辺や八幡台団地周辺、荒尾駅周辺などの人口集積地において高齢者が増加しており、今後、特に高齢者の一人暮らし世帯などにおいて、移動が困難となる方が増加することが懸念される。

②公共交通利用者数の減少

路線バス利用者数の減少が続いており、市の財政負担も、一旦は下がったものの、再び増加に転じることが懸念される。

③高齢者の活発な移動

買い物や通院に加え、娯楽・イベント参加のための外出も多く、健康増進のためにも、移動手段の確保が望まれる。

④若年層における路線バス利用の低迷

勤労世代の移動手段はほとんどが自家用車である一方、高校生の移動も、玉名市方面への通学を除き、バス利用は低迷している。

公共交通の現状・課題

①移動ニーズと公共交通網・ダイヤの不一致

高齢者の活発な移動が見られる一方、娯楽・イベント施設や生活利便施設へのアクセスは十分に確保されておらず、高校生の通学においても、鉄道駅から学校までのアクセスが十分に確保されていない。また、移動ニーズとダイヤの不一致も見られる。

②利用の低迷する非効率な路線の存在

倉掛線(北口経由)、グリーンランド線、長洲港線など他路線と比較して利用の低迷する路線・系統が存在し、長洲玉名線などの長距離路線についても、利用が少数にとどまり、非効率な運行区間となっている。

③市境をまたぐ広域的な連携の必要性

高齢者をはじめ、勤労世代、高校生のいずれにおいても、娯楽・イベント参加などのための大牟田市への移動が多くなっているため、移動手段を確保するため、広域的な連携が望まれる。